

# IPU MAG

地域とともに未来をデザインするマガジン Vol. 51  
2012 Spring

51

Iwate Prefectural University  
Magazine

【特集1】

## 地域食材の力で 岩手を元気に するには？

おからパンの共同開発



【特集2】

## 学校・応急仮設住宅における コミュニティ形成と子ども支援事業

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち  
アイーナで学ぼう!



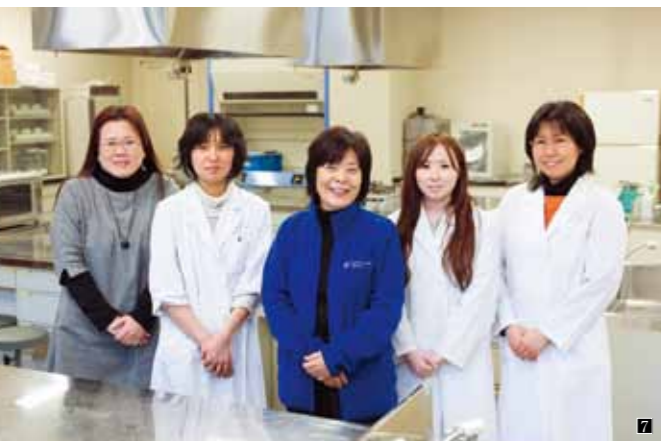
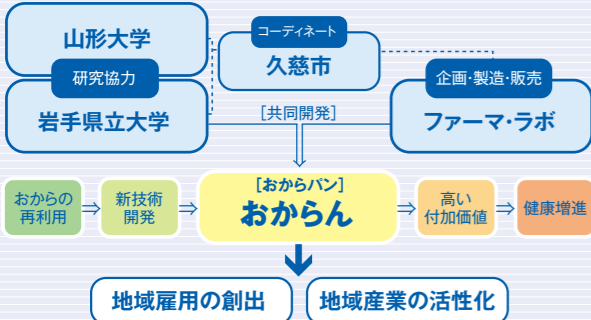
岩手県立大学

# 「おから」を活かして商品開発、人々に健康を、地域に活力を。

地域食材の力で岩手を元気にすることは？



## 「おから」開発フロー



- 1 「おから」の開発を手がけた乙木隆子准教授(中央)とファーマ・ラボの栄養士、嵯峨優季(左)さんと岩崎裕利佳(右)さん。
- 2 「おから」はおからと卵白が主原料。主食をおからにするだけで、一食150kcal以上のカロリーを減らせるという。
- 3 食べやすいように工夫を重ねて開発された「おから」。おからが原料なので洋風だけでなく和風のテイストにもマッチする。
- 4 「おから」を販売するときは、栄養士が食の改善アドバイスを行う。商品だけでなく健康をトータルに考えた提案。
- 5 材料を配合し、製造を手がける栄養士。春には製造工場が着工する予定。
- 6 昨年10月、「おから」発売記念としてランチコンサートが開催された。写真はコンサートの様子。
- 7 盛岡短期大学の開発チーム(左から)長坂慶子准教授、笹田怜子助教、乙木隆子准教授、小泉千嘉助手、松本絵美助教

# 「おからパン」の共同開発

日本一低カロリーな主食をつくりたい。そのために「おから」に注目したのは、県内で薬局を経営する企業でした。

品質と味を追求するため、盛岡短期大学部に開発の協力を依頼。専門知識を結集して臨んだ。共同研究についてご紹介します。

「食の専門家が必要」企業からの依頼で共同開発がスタート。

昨年11月、久慈市内で薬局を経営する株式会社ファーマ・ラボが、岩手県立大学や山形大学と共同開発した国産のおからを使用したおからパン「おから」の販売を始めました。ファーマ・ラボの細田稔男社長は、「健康は薬だけで維持するものではなく、日頃の食事や運動で管理することが大切ではないかと、以前から考えていました」と、商品開発に至った思いを語ります。

岩手は豆腐の消費量が多いものの、栄養価の高いおからが産業廃棄物として処分されていることから、

健康の保持・改善と、地域の雇用に貢献するおからパン開発に成功。

おからパンの開発を引き受けたのは、盛岡短期大学部食物栄養学専攻の乙木隆子准教授を中心とした開発チーム。最初に着手したのは、商品コンセプトづくり。ファーマ・ラボの2人の栄養士と一緒に、ターゲットはだれか、形はどうするか、カロリーはどのぐらいか、味はどうするのかなど、細かく絞り込んでいきました。開発作業が本格化してからも、苦労はいろいろありました。おからの栄養価を崩さずに、カロリーを抑えたり、おから独特のおいさを軽減させたり、どんな料理にも合う味にした

りするために、栄養教育や臨床栄養学、食味改善などそれぞれの専門分野の先生たちが総力を結集。「食物栄養学専攻の先生がみんな関わ



おからを原料にした低カロリーの主食用食材をつくりたいと思っていた細田社長。食品開発の経験はないため、久慈市がコーディネーターとなり、3年前に共同研究を進めてくれる大学を探し始めました。

でんぶん質で膨らみにくいおからをパンにするという難題を引き受けてくれたのは、プラスチック加工技術を応用し、米粉100%の製パンに成功した実績を持つ山形大工学部。同大の技術でパンのように膨らませることは成功したものの、食品開発としては食味や栄養価も欠かせない要素。そこで久慈市はさらに、栄養学の専門家の力を借りるべく、地域連携の研究のための協力体制が整っている岩手県立大学の地域連携本部へ協力を依頼したのです。

り、おからパンの実現を目指しました」と、乙木隆子准教授は語ります。こうして開発されたおからパンは、「おから」とネーミング。おからと卵白を主原料とし、2本で55キロカロリーという日本一低カロリーな主食を完成させたのです。「おからは健康を求め

るお客様が訪れる「薬局」で販売し、「食事改善提案」として、栄養士が商品説明やアドバイスをします」と話す細田社長。ファーマ・ラボではおからの販売に伴い、栄養士を新たに3人雇用。春には製造工場の着工が予定されており、さらなる地元雇用による震災からの復興へのつながりも期待されます。また、県立大学では、おからの製造に係る技術の一部についてファーマ・ラボとライセンス契約を締結しました。

岩手県立大学では今後も企業や自治体と連携しながら、地域産業を活性化するさまざまな研究に取り組んでいきます。

### 「連携企業からのメッセージ」

株式会社ファーマ・ラボ 細田稔男社長

おからは薬局での取り扱いを目的とした食品なので、食の専門家や栄養士の先生が揃っている県立大との共同研究により、品質の信頼性と食味の良さを追求したいという思いがありました。今回、商品のコンセプトづくりから力を貸していただき、企業が大学との共同研究で求めているのは、具体的な開発のサポートだけでなく、企画段階でのアイデア提供だと感じました。県立大にはこれからも、地域をデザインする役割を担っていただきたいと思っています。おからのほか、三陸沿岸の海藻類なども、使われずに捨てられるものはないと思います。こうした食材を使った商品開発も、県立大の先生方の協力をいただきながら手がけたいと考えています。



海藻を使った低カロリーのドレッシングなど、新たな商品を開発にも意欲を燃やす細田社長。



# 「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたくて様々な研究教育活動をご紹介します。



◎講座プロフィール  
ICT(情報技術)を活用して福祉や教育の問題解決などに取り組む、情報システム構築学講座。この中で高木正則講師は学習支援システムのイノベーターとして、児童や学生の学習意欲の向上や授業の活性化などを研究中。現在、高木講師のグループでは、「盛岡もの識り検定Web問題集」や「農業体験学習支援システム」などの開発に取り組んでいる。

[研究メンバー]  
高木正則(ソフトウェア情報学部・講師)  
※左から3人目  
古館昌伸(ソフトウェア情報学部3年)  
奥津翔太(ソフトウェア情報学部4年)  
中村武道(ソフトウェア情報学部3年)  
菅原達介(ソフトウェア情報学部4年)  
吉田昌平(ソフトウェア情報学研究所 博士前期課程1年)  
※学生氏名は写真左から順に記載。(学年は3月末時点)

## 今回の研究テーマ 地域に根ざした「学習支援システム」の開発・運用 [情報システム構築学講座]

利用者参加型の新たなサービスで、地域の魅力発見や再認識を促す。

『盛岡もの識り検定』は、盛岡市の歴史や文化、産業など、多分野にわたって「盛岡通」度を認定する検定試験。高木正則講師のグループでは盛岡商工会議所と連携し、過去問題をゲーム感覚で楽しめる「もりおか検定Webクイズ」を開発。しかし、出題サイドに専門家が少ないため、作問に限界があることが課題でした。そこで高木講師らは、利用者自身が作成したクイズを投稿・共有できるユーザー参加型のサイトへと機能を拡張。これによって様々な利用者が「独自の観点で作成した問題」を解答できるようになり、盛岡ならではのコアな地域資源を幅広く収集し、配信することが期待できます。今後は、スマートフォンなどの携帯端末向けのサイト開設も計画中です。



リンゴ畑で収穫体験をする児童たち。この観察とリアルな体験によって、本当の学びが身に付く。

学習支援システムの活用で農業の楽しさ・大切さを学ぶ。

高木講師のグループでは紫波町と連携し、小中学校で実施されている農業体験学習の学習支援システムも開発しています。昨年度は紫波町立赤沢小学校で行われているリンゴの農業体験で、システムを活用。5月末から収穫期までリンゴ畑に設置したWebカメラで、毎日5時~18時まで1時間に1枚写真を自動撮影し、教室にしながら畑の様子を観察できる仕組みです。児童たちはリンゴの様子を観察することで植物の成長に感動し、普段は気づかなかった農作業の大変さや大切さも学ぶことができます。現在は成長観察を中心に行っていますが、農作業の様子を抽出することでキャリア教育や後継者の育成に活かすなど、新たな方向での活用も考えられます。



「もりおか検定Webクイズ」のログイン後の画面。自分で問題を投稿しながら参加できる仕組みだ。

## 地域食材の力で岩手を元気にするには?

今回の特集テーマに関するアイデアをtwitterで募集したところ、地域食材の見直しや全国に売り込む仕掛けなど実際に役に立ちそうなものなどたくさんのツイートをいただきました。その中からいくつかをご紹介します。



あまり狙いすぎた物は定着しない気がする。昔ながらの地域に根付いた「食」を探し出して発信するのも手かと…。地元の人が普通だと感じすぎてアピールをする気も起かない物が意外と他県の人間からすると新鮮で、興味をそそられるものがあると思う。  
**@hiroshi\_s2kb**

もうすぐ春だし、岩手県でつくった食材のお弁当を持って、岩手県の自然にピクニックに行きたいなあ。なんて思いました♪レストランだけじゃなく、駅弁とか、持ち帰れる地域食がもっと増えてほしいと思います。  
**@alt\_keys**

水は食の原点。岩手のおいしい水があるから、おいしい食べ物が育つ。例えば葉わさびと湧き水のように、ご当地ウォーターとご当地食材をセットにして全国に売り込む。水がきれいな岩手を定着させる。  
**@etsu\_etsu\_etsu**

岩手の特産品を使ったフルコースメニューをつくる(マンガのパクリみたいだけど)ひとつじゃないで「美容に特化した」とか「パワーが出る」などそのテーマにそったメニューで、全国のレストランに食材とメニューを提供、ってどう??  
**@koubouari**

全国的に有名な南部杜氏や地ビール、幸いにも地ワインまであるので、それぞれに合う野菜などの地元食材を醸造側にオススメしてもらってのはどうでしょう。ないのなら農家さんと相談してお酒に合う専用の食材を造ってもらってのも面白いと思います。  
**@kodaredera**

地元のものは地場消費をという意識を消費者がもっともっと意識するところから。スーパーで野菜選ぶも、外食するも。それがカッコイイと思う県民が増えればいい。  
**@cucicon**

県外へのアピールも必要だと思いますが、まずはシンプルに地元での販路拡大を。産直なんか行けば地物が多品目並んでいるけど、仕事の日などはやはり近場のスーパーを利用する。意外と県外の食材が多いんですね。  
**@Nandarikan**

「南部ナントカ」って名前は、実は東北以外の人にはちょっと伝わりづらい気がするので、PRしたい食材にはド直球で「いわて」という名をつけた方がいいんじゃないかと、個人的には思ってます。  
**@ta\_mina**

### Comment

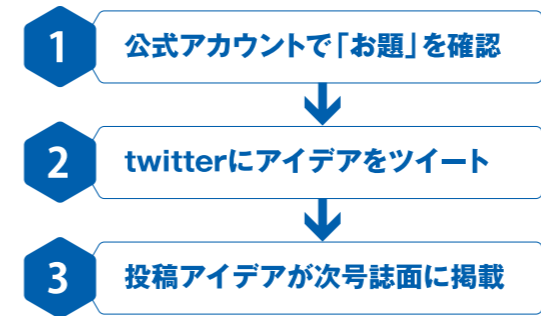
岩手県の食材のすばらしさはご存知のようですね。森林が育むきれいな水、肥沃な土、豊かな海など、自慢できるものはたくさんあります。これをどのように伝えるかということに尽きるようです。多くの県産食材や食文化にふれて、県民のみならず一人ひとりがセールスマンとして、広く県内外にPRすることを期待しています。



管理栄養士/乙木 隆子 (盛岡短期大学部准教授)

※誌面のスペース等の都合により、お寄せいただいたツイートのうち一部の掲載とさせていただきます。

### 【特集に関するアイデア・ツイートの流れ】 twitter



※ツイートの際には、文末に「#ipumag(発行号数)」を付記してください。「発行号数」は、本号では「51」、次号では「52」と変化しますので、「#ipumag51」「#ipumag52」のように表記してください。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願いします。※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承ください。

次回の「お題(テーマ)」はツイッター上で発表します。一般の皆様、学生・教職員の皆様からのツイートを広く募集しています。たくさんのアイデアお待ちしております!



写真上：地域の住民たちと一緒に餅つきを手伝う学生ボランティア。写真右下：子どもたちとの遊びも大切なボランティア活動のひとつ。写真左下：仮設団地の集会所で地域住民と交流する学生たち。

# 被災地の復興パートナーとして 住民たちの地域活動をサポートする。

昨年夏、新たな被災地復興支援モデルとして大きな注目を集めた「いわてGINGA-NETプロジェクト」。文部科学省補助事業「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」の柱のひとつ「学校・応急仮設住宅におけるコミュニティ形成と子ども支援事業」の担い手として活動を継続しています。「冬銀河」と「学びの部屋」の活動を通して、新たな取り組みをご紹介します。

## 再び始めた被災地に 変わり始めた被災地に 再び全国の学生が集結。

年の瀬も押し迫る昨年の12月29日。住田町の五葉地区公民館に、京都、東京、名古屋から45名の学生たちが集結しました。昨年夏に行われた「いわてGINGA-NETプロジェクト」に続く、「冬銀河プロジェクト」に参加する学生たちです。今回の活動のテーマは「再会」。夏に岩手に来た学生たちが再び、仮設住宅でのコミュニティづくりの支援を行うのです。

震災後初めての年末年始を迎える被災地では、時の経過とともに状況も変化。多くの地域で自治会が発

足し、住民たちの自主的な活動が始まるなどコミュニティ復活のきざしが見えてきています。しかしその一方で、自治会をつくれぬ地域や住民同士のコミュニケーションに悩む地域があるなど、夏とは異なる状況の中で「冬銀河」はスタートしました。

## 持ち込み型の支援から 活動に寄り添う支援へ。

仮設住宅での最初の活動は、まずニーズを探るための挨拶から。家を回っていると、「前に来てくれた学生さんたちね」と言われたり、子どもたちが集まってくるなど、夏から活動を継

続していることへの信頼感が感じられます。徐々に交流を広げる中で、餅つきなどの楽しい時間をお手伝いする一方、住民の体験悲しさなどを受け止め、気持ちに寄り添うこともありました。学生たちは数日の間に、地域や人々の変化を肌で実感。住民どう向き合うべきか。ボランティアは本当に必要なのか。活動の振り返りの時間には、悩み

の声も多く聞かれたといいます。被災地の復興の歩みにあわせ、完全持ち込み型から、地域の自主的な活動をサポートするボランティアへ。支援のあり方も変化の中で、「いわてGINGA-NETプロジェクト」の活動は冬から春、そして夏へとバトンをつないでいきます。

## 子どもの居場所をつくり、 勉強も悩みもサポート。

中学生の学習支援を目的に、陸前高田市で「学びの部屋」が開催されています。これは勉強だけでなく、子どもたちが安心して過ごせる「居場所」をも提供する場。毎週火木曜日は学習支援員の専任講師が、日曜日には県立大学の学生が学生サポーターとして

支援し、相談にも耳を傾けます。同様に宮古市でも宮古短期大学の学生による「学びの部屋」がスタート。他にも、大人の援助のあり方を指導する研修会などを開催しながら、被災地の子ども支援の仕組みを強化しています。



年の近いお兄さん、お姉さんである学生たちは、中学生には頼もしい存在だ。



「学びの部屋」は自主学習が基本。わからないときは学習支援員や学生に質問している。



陸前高田市の「学びの部屋」で中学生を指導する学生ボランティア。



ある地域ではひとり暮らしの家などに年越しそばをふるまい、喜ばれた。

### 文部科学省補助事業 ＜いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業＞

今回特集した「学校・応急仮設住宅におけるコミュニティ形成と子ども支援事業」に、「地域を担う中核的人材育成事業」を加えた2本の事業を柱に、「いわての人材育成とコミュニティ形成支援」を行い、「復興の主体」として岩手県の要望に応え、復興に取り組む事業です。

1. 学校・応急仮設住宅におけるコミュニティ形成と子ども支援事業  
岩手県立大学学生ボランティアセンターが夏季に実施した「いわてGINGA-NETプロジェクト」を発展継続。小学生対象の居場所づくり、中学生の学習支援、応急仮設住宅の見守りなど行う一方、学生ボランティアのソーシャルスキルの修得も行う。

- ① 学生ボランティアによる小中高校向け学習支援・居住支援
- ② 学生ボランティアを中心とした地域コミュニティ復興支援
- ③ 学生ボランティアを対象としたコミュニティ支援力養成

2. 地域を担う中核的人材育成事業  
岩手県内の5つの大学で構成する「いわて高等教育コンソーシアム」が中心となり、連携大学の特色を最大限に生かしつつ4つの事業（沿岸復興活動拠点の形成・大学進学事業・中核的人材育成事業・地域貢献事業）を通じ、震災復興を担える中核的人材の育成事業と被災地の復興に貢献する研究を推進する。

### 震災で崩壊した状況にある地域のコミュニティの再生 地域に根ざし地域を支えてゆく人材の輩出

### 「学びの部屋」を支える「学生」「大人」の声

#### 【学生サポーターから】

咲山 拓哉さん(岩手県立大学ソフトウェア情報学部・1年)  
教えることが好きだったので、思い切って応募しました。最初はうまくコミュニケーションが取れなかったのですが、今はだいたい打ち解けて話せるようになりましたね。心がけているのは、同じ目線に立ち、わからないことは一緒に考えること。子どもたちが少しでも元気になるように頑張りたいですね。



#### 【学習支援員から】

松 夏生さん(陸前高田市学習支援員)  
「学びの部屋」に通う子どもたちは、友達と話したり、ここで過ごすのが好きだという子が結構多いです。時には悩みごとを相談されることもありますし、愚痴を聞いてあげることもあります。ここは、学校でも家庭でもない、もう一つの大事な「居場所」。のびのびと過ごしてもらえればいいなと思っています。



【いわてGINGA-NETプロジェクトHP】  
<http://www.iwateginga.net/>





## 地域をつくる 希望の星たち

常に攻めの姿勢で仕事に向き合い、  
新しいことにチャレンジしていきたい。

### 卒業生



**松田 耕一**（岩手県総務部人事課）  
1979年陸前高田市生まれ。県立高田高校卒業。岩手県立大学ソフトウェア情報学部で学び、MRの画像処理を研究。学生時代は硬式テニス部をつくり、部活動などにいそいそ。岩手県に入庁してからは仕事ひと筋だが、毎年さんさ踊りに出場したり、趣味の山登りを楽しんだり、アクティブに活動中。

地域貢献を使命の一つに掲げる  
岩手県立大学。  
学習や研究に励みながら  
地域に役立つ力を磨く在学生と、  
仕事を通じて  
地域づくりに関わる卒業生、  
それぞれの熱い思いを  
紹介します。

### 在学生



「普段から顔の見える地域のつながりづくりを目指す」、ドナベネットの活動「鍋っこサロン」は県外にも広がりをみせる。2月11日に新ひだか町（北海道）でも行われ、当日は八重樫さんもアドバイザーとして参加。

岩手を動かすのは岩手にいる私たち、  
学生の力を活かす新たな場をつくりまします。

大学進学前は自分の将来に特に明確なビジョンがあったわけではないです。そんな私が変わったのは、岩手県立大学に入学してからのこと。きっかけは、学生ボランティアセンターとの出会いでした。最初はスタッフの一員として参加するだけだったのですが、1年生の秋に「ドナベネット」のリーダーになったことが転機でした。これは、地域住民と学生が鍋を囲みながら交流し、様々なネットワークを広げるプロジェクト。企画の立案から運営のすべてを手がけたことで、自ら動き、実現することの面白さに目覚めたんです。

震災直後は約1ヶ月間、釜石市の災害ボランティアセンターで職員のサポートを。夏は「いわて GINGA-NETプロジェクト」のメンバーとして全国から集まった学生たちを支援し、現地ニーズの調査からグループ構成、現地への振り分けなどを二手にこなしました。毎日が本当に大変だったのですが、何より良かったのはずっと沿岸を支援できたこと。学生たちが見つないだバトンが、地域との絆となって生きていることです。

この財産を活かし、新たな活動を広げるために、4月にNPO法人を立ち上げます。私が代表となるのですが、岩手で頑張りたいという学生を支援する拠点をつくりまします。その結果、岩手が好きだという若者が増えてくれたら、とても素敵ですよ。

**八重樫 綾子**（社会福祉学部福祉経営学科4年）  
1989年盛岡市生まれ。県立盛岡第二高校卒業。福祉経営学科経営システム教育群に所属し、卒業後は「仮設住宅に暮らす一人暮らし高齢者の生活課題」を研究。好きな言葉は「すべての人は我が師なり」。「いわて GINGA-NET」で生まれた多くの出会いを通じて、実感したことがいっぱい。

私は岩手県立大学の二期生。新設校だったので不安もありましたが、県立大学なら「ゼロから歴史をつくれるんじゃないか」そう考えて入学を決めました。専攻はソフトウェア情報学部でしたが、IT企業に進むよりも「岩手の役に立つ仕事がしたい」と思って公務員を志望したんです。

入庁後は、観光課、振興局の土木部などを経て、現在は人事課に所属。専門職や新卒者の選考、県民栄誉賞の式典業務など、幅広い仕事を担当しています。人に関わる分だけ難しいことも多いのですが、人事課は県の屋台骨を支える大事な仕事。知事に近いセクションですから、「人」を動かすことは「県」を動かすことにもつながります。仮に県の仕組みを変えようと思えば、それを実現できる可能性が今の仕事にはあると思っています。

ともすれば行政の仕事は、前例を踏襲し、運用することが目的になりがちですが、私はそこに疑問を感じるんです。与えられた仕事をやればいいのか。ではなく、おかしいと思うことはどんどん変えるべき。常に攻めの姿勢で、ベストな方向を目指すことが大切ではないでしょうか。学生のときは、ゼロから大学をつくりまします。仕事でもチャレンジする気持ちを失わず、自分にしかできないことをやっていきたいと思っています。



甲斐谷 望さん

# 甲斐谷望の アイーナ学ばら!



「岩手県立大学アイーナキャンパス」は、県民の皆さんが大学の授業や講座に参加できるサテライトキャンパス。専門的な知識はもちろん、暮らしや健康に役立つ知識など、内容も盛りだくさん。本学卒業生でIBCアナウンサーの甲斐谷望さんが、講座の様子をリポートします。

## 今回の講座

### 「いわて5大学、駅前講義」

県内の5大学が連携\*して、高校1・2年生のための「駅前講義」を開催しました。これは、大学の先生から進学に必要な情報や、力を入れるべき勉強などを教えてもらう講座。来年度は11月に開催を予定していますので、ぜひご参加ください。

\*いわて高等教育コンソーシアム/地域を担う人材育成を目指し、岩手県立大学、岩手大学、岩手医科大学、盛岡大学、富士大学が連携して活動している。  
ホームページ⇒<http://www.ihatov-u.jp/>

## 相談事業のご案内

アイーナキャンパスでは講座のほかに、下記の相談事業が定期的に行なわれています。

### ■不妊・遺伝相談(相談無料)

不妊や遺伝の悩みについて、助産師が相談をお受けします。  
[相談日時]不妊相談…毎月第2水曜日 14:00～16:00 ※予約不要  
遺伝相談…毎月第2土曜日 14:00～16:00 ※要予約  
[場 所]アイーナキャンパス セミナー室2  
[お問合せ・ご予約]電話019-694-3230(看護学部 高橋)

### ■赤ちゃん相談室(相談無料)

1歳までの赤ちゃんのお世話で困っていることや気になっていることについて、助産師がご相談に応じます。  
[相談日時]毎月第2水曜日 13:00～16:00 ※事前予約可  
[場 所]アイーナ6階 子育てサポートセンター  
[お問合せ・ご予約]電話019-694-3232(看護学部 金谷)

### ■生活習慣病療養相談(相談無料)

糖尿病、心臓病等の生活習慣病の療養、食事療法等療養にかかわること全般について心配のある方はご相談ください。  
[相談日時]毎週水曜日 9:30～11:00(8月・9月と年末年始は除く) ※要予約  
[場 所]アイーナキャンパス セミナー室2  
[お問合せ・ご予約]電話019-694-2242(看護学部 土屋)  
※医療機関に通院中の方は、できるだけ主治医に、簡単な内容で紹介状を書いていただいでご持参ください。後日、主な相談経過を主治医に報告させていただきます。

平成24年度の講座の実施スケジュールはホームページでご確認ください。

岩手県立大学アイーナキャンパス

検索

## スタート!



この教室では「福祉系」大学での勉強や仕事について講義。盛岡、紫波、花巻、一関など、各地から高校生が参加。



講師は県立大学社会学部社会学部の藤野好美先生。「社会学部」の基本から、丁寧に優しく説明します。

社会福祉ってどんな勉強をするのかな?

プロジェクターやビデオ映像を使って、わかりやすく紹介します。



高校生たちも真剣そのもの。大事なところはしっかりメモを取ります。

どんな勉強をしたらいいかアドバイスも。



早めに目標を定めたい人にタメになる講義ですよ。

「知らないことがわかって良かった」という高校生たち。パンフレットだけではわからない生の話を聞くことで、自分の夢がより明確になったようでした。



【岩手県立大学アイーナキャンパス】いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 tel.019-606-1770

## 編集後記

震災から二年がたちました。今号では、おからが主原料の低カロリーなパン「おからん」や、学生たちが餅つき、おそばを振る舞った「冬銀河」の活動など、食生活に密着した活動を取り上げています。避難生活では、普通に「食べる」という行為にも困難が生じます。そのような中で、こうした「食」を通じての活動が生活の安定を呼び、地域のコミュニティの回復にもつながるのでは、などと考えさせられています。(企画室 T・O)

今号のトピックスで紹介している「ミライ トークカフェ」。私も一学生として参加しました。イベントでは同じ学部の卒業生だけでなく、他学部の卒業生からも進路や生活など様々なアドバイスをいただくことができました。また、卒業生の経験を聞くことは、自分の将来を改めて考えるきっかけにもなったと思います。今回初めての開催となったイベントでしたが、私自身とても充実した時間を過ごすことができ、また開催してほしいと思いました。(出版委員会 A・Y)

トピックスにて紹介した「東北発★未来塾」は、ツイッターで学生のつぶやきを見てぜひとも記事にしたいと思い取材させていただいたもの。普段はネット上での気軽な付き合いしかしていない方も多いので、メールでかしてまったり取りをするのは不思議な感覚でした。岩手県立大学の学生はフェイスブックやツイッターなどをよく利用しているので、そういう SNS 上でもアンテナを伸ばしてネタを収集するようにしています。出版委員会のアカウント(@c\_pu)もありますので、よろしくお願ひします!(出版委員会 T・Y)



岩手県立大学 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会  
Iwate Prefectural University

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52  
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001  
[URL] <http://www.iwate-pu.ac.jp/>  
[e-mail] [management@ml.iwate-pu.ac.jp](mailto:management@ml.iwate-pu.ac.jp) 発行:2012年3月31日

表紙や誌面に使用している六角形の「ハニカム構造」は、強固な形といわれるもの。岩手県立大学と地域などとの「結びつき・つながり」の強さを表しています。

Copyright © 2012 IPU All Right Reserved.